森林暦

327
968

始

327-968

帝國圖書館藏

凡例

一、本書は林業家が常に座右に置きて年中の重寶となすべき行事を集綴し之に附錄として苗圃の注意なる一表を添付せり

一、本書は農商務省山林局編纂林業年中便覽及三溝謹平氏著林業年中行事害蟲驅除豫防月齡を參照して編纂上梓せり

こ云へども本縣に適當せしむるには將來猶改訂を要する點多々あるべしと信ず

大正六年三月

滋賀縣內務部森林課

大正
6. 5. 16
內交

森林暦目次

一月……一
二月……五
三月……八
四月……一三
五月……二〇
六月……二八
七月……三四
八月……四〇
九月……四四
十月……四八
十一月……五三
十二月……五七
苗圃之注意……

一月

暦
- 氣節　六日　小寒　二十日　大寒
- 大祭祝日　三日　元始祭　五日　新年宴會
- 雜節　十八日　土用
- 朔望　八日　望　二十三日　朔

内業

一　前年に於ける各種外業に關聯せる計算竝に製圖類を取纏め且諸帳簿及統計類を整理すべし。

二　春蒔用の種子を精撰し且其發芽量を檢し坪當播種量を定め置くべし。

三　器具器械及諸道具を取調べ其不足せるものは購入の手續をなし破損せるものには修繕を加ふる等整理をなすべし。

四　境界用其他各種事業上必要なる標杭及苗圃用立札竝苗木運送用の木札等を作るべし。

五　年内を通じて氣温を檢測し且雨、雪、霜、霰、暴風、洪水其他天候上の關係を記錄して事業上の參考に資すべし。

苗圃

一　霜柱、降雪及寒風等の爲め苗木の害せられざる樣保護に注意すべし。

二　風雪等の爲め霜除の破損せるときは其都度直に修繕すべし。

三　肥料を準備し豆糟、油糟の如きは搗き碎きて紛末となし置くべし。

造林

四 播種用並日除用材料即ち簀、竹、杭、縄、蓁等の準備をなすべし。

五 降雪なき地方に於ては春季使用すべき苗圃地を一尺四五寸の深さに鋤返し寒さ雨雪に曝して蟄伏せる害蟲を驅除し土壤の風化を促すべし。

六 時々巡視して諸害に注意すべし。

保護

一 積雪なき地方に於ては新植豫定地の地拵(地明)をなすべく暖地にありては可成本月中に之を終了すべし。

二 枝打を行ふべし但寒氣强く切口凍傷の虞あれば之を見合すべし。

三 間伐を行ふべし但杉、扁柏林にありては樹皮を利用せざる場合に限る。

一 積雪なき地方に於ては野火に注意すべし特に新植地に於て然りとす。

二 降雪多き地方に於ては本月より二月に亘り林内橋梁の除雪をなすべし。

三 積雪のため立木竹の彎曲傾倒せるものを生じたるときは縄等を以て引起し之を保護すべし。

四 年内を通じて油斷なく盜伐及境界保護に注意し且運搬路の排水を勉むべし。

五、四季共に間斷なく有害動物の驅除に力むべし就中冬期積雪のため食物なき候に於て杉、扁柏松類の造林地に兎及鹿等の害甚しく又松類、栗、櫟其他の濶葉樹林に野鼠の害多きを以て燐、亞砒酸「ストリキニン」、チブス菌等を用ゐて驅除すべし。

利用

六 積雪なき地方に於ては總て害蟲の卵を採種し又松毛蟲の幼蟲を蘚苔中に搜索して之を殺すべし。

七 松林にありては松毛蟲を防禦する爲め「ペンキ」又は「鳥モチ」等を塗抹する準備として其樹幹に目印を附す。

八 白點象蟲は被害樹の根際に潛伏す。

九 杉芽蝕蟲の蟄伏せる場所を搜索して驅除すべし。

十 ケラを捕獲する爲苗床の中に馬糞を埋め藁蓆を以て覆ふ時はケラは暖かき所を好み之に集るを以て捕殺すべし。

十一 栗、櫟、枹、柳及ヤマナラシ等を伐採して其幹に寄生せる天牛を殺し又は立木の儘錐を以て之を突き殺すべし。

十二 栗蟲、櫟毛蟲、ヤマカラテウ等の卵を其幹の枝下或は凹所に發見して之を壓殺すべし。

十三 山葵栽培地にありては若芽の浸水せざる程度に養水を深くすへし。

十四 山葵は本月下旬より花軸を抽出するものにして此の時より六月下旬に至り種子成熟する迄では其根部に僅少なる瑕疵を被るも腐敗し易きものなれば能く注意すべし。

一 前年より引續き冬季伐木造材を行ふべし。

二 竹林の伐採は引續き本月中旬迄に行ふことを得。

三　本月より二月上旬に亘り椎蕈原木として樫、椎を伐採すべし。

四　季節により又地方により自ら運搬の方法を異にすべきも四季を通して運材事業を施行すべし

五　樹木の生長を始むるに至る迄は炭燒の好季節なり。

六　引續き山菱の採取をなす收穫後は直に植付をなす。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一　溪谷工事を施行す殊に柳柵工の如き其他總て粗朶を使用する工事を施設す。

二　積苗工水路張芝工及筋工に薄株萩苗を植栽し下旬に至れば山榿、ヤシヤブシ苗の植栽に着手す共に苗木間を一尺乃至二尺とす。

三　谷川の最低水位を測定し置くべし。

四　森林土木工事は年内を通じて之れを施行すべきも積雪多く土地凍結の甚だしき地方に在りては其期間は可成之を見合すべし。

狩獵及其他

一　鷲類は一二月の頃に於て交尾し三月の頃二三ヶの卵を産す。

二　狐は一二月の頃に於て交尾し姙娠約六十日にして三四月の頃分娩す其産仔數四五頭なり。

三　蜜蜂は氣温攝氏十度以下に降るときは休眠するを以て靜に保たしむべし。

四　上流にて產卵孵化したる鱒兒游泳を始む。

二月

暦（氣節　四日　立春　十九日　雨水
　　雜節　三日　節分
　　朔望　七日　望　二十二日　朔）

内業

一　引續き前年に於ける各種外業に關聯せる計算並に製圖類及び諸帳簿統計類を整理し本月中に取纒むるを要す。

二　苗圃其他造林事業に使役すべき人夫招集の手配をなすべし。

三　椎茸乾燥室を修繕し乾燥用の器具を準備し置くべし。

苗圃

一　寒地の苗圃にありては霜柱の爲脫け出たる苗木を集め之を假植し置くべし。

二　温暖なる地方に於ては苗圃地の凍結融解せるものを耕鋤し原肥を施し以て播種の準備をなすべし。

三　苗床は巾三尺長任意なるも日除、霜覆の關係より二間、四間等の偶數を用ゐ長邊を東西の方向とし良く耕鋤して障害物を除去し施肥を爲すべし。

四　暖地の苗圃にありては落葉濶葉樹又は松類山橿の苗木を堀取りて假植し植付の準備をなすべし。

五　苗木を堀取るには丈夫なる鎌或は小なる唐鍬を用ゐて根幹枝葉を傷めざる樣にし又捨て置きて風或は日に晒し乾かさゝる樣にすべし。

六　遠隔の地へ送達すべき苗木を堀取り其根を濕潤なる水苔にて包むか或は粘力强き土水に浸し叮嚀に荷造をなして輸送すべし但土地凍結せる間は苗木の根を損傷するにより堀取を見合すべし。

七　暖地の苗圃に在ては中旬より床替を始む。

八　下旬にはスギ、ヒノキの山出苗を堀り採りて假植をなす。

一　積雪なき地方に於ては新植豫定地の地拵を續行すべし。

二　春期植栽用苗木の購入を要する場合に於ては豫め其手續をなすべし。

三　暖地にありては本月中より植付に着手すべし但落葉濶葉樹類又は松樹の植栽を先にし漸次杉扁柏等に及ぼすべし蓋し植付は土地の凍結融解するを待ち直に着手して可なり其早きに失するは晩きに過ぐるに優れり。

四　間伐、掃除伐及枝打を續行すべし。

五　本月より三月に亘り又は五月中に江南竹の移植をなすと雖も二、三月中に移植のものは年内

其根能く擴張するが故に五月植のものに比し成績可良なり。

一　雪害は前月に比すれば寧ろ本月に於て甚し注意すべし。

二　松毛蟲の蘚苔中に隱匿せるものを搜索し又之を防ぐ爲め「ベンキ」「タール」「トリモチ」等を塗り始む。

三　苗圃の耕耘に際しかねて金龜子幼蟲(卽根切蟲)を捕獲すべし。

四　其他前月に同じ。

一　引續き冬季伐木を行ふべし。

二　降雪多き地方に於ては本月より三月に亘り深山の積雪固結して徒步に便なるを以て此時季を利用して主伐、間伐其他の實査をなすべし。

三　引續き山葵の堀取をなす堀取後は直に植栽をなすべし又地下莖の發育を圖る爲め花軸を摘み取り食用とす。

四　引引續き椎樫等椎蕈原木の伐採をなし並に發生せる椎蕈を採取し乾燥すべし、昨冬伐採せる榾木を五尺位に切斷し寢込をなす。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一　前月に引續き筋工に薄株、萩苗を植栽し又山榿、やしやぶし、の植栽を終了す下旬には松類あかしや、山はんのき、合歡樹（ネムノキ）、ぐみ、等の苗木植栽に着手す但しあかしやは苗木間を三尺とす。

狩獵及其他

一　兎は毎年四回（稀に五回）即ち二月、四月、六月、及九月の頃に於て交尾し姙娠三十日にして分娩し毎回三四頭の仔を產す。

二　蜜蜂の引續き休眠するものは靜肅に保たしめ若し出遊せむとするものあれば巢門を開き且つ比較的濃厚なる蜜を給與すべし、是より多忙なる養蜂期に入る。

三　ひうを（あゆの仔魚）下旬より溯上し始む。

三月

暦

氣節	六日	啓蟄
祭日	二十一日	春期皇靈祭　二十一日　春分
社日	十七日	
彼岸	十八日	
朔	二十三日	朔
望	九日	望

內業

一　上旬には苗圃用鍬、四ッ鍬、熊手、竹さらゑ、鎌、水桶、張繩、土篩、もつこ、荷棒並林地植付用具即ち唐鍬、鎌、鉈、根包菰、荷棒等を取揃へ事業實施上差支なからしむべし。

二　貯藏せる種子を取り出し播種の準備を爲すべし。

三　椎壹春子を容るべき紙袋及其外裝用の菰又は箱を調製すべし。

苗圃

一　上旬より播種を始む即ち大粒の種子及種實堅く發芽の遲きものを先にし松、杉、扁柏等の如き細粒のものを後にす何れも發芽後に於て降霜なき頃を見計ひ着手す。

二　播種は扁柏種實の如き小粒にして飛散し易きものは充分水に浸して取り上げ之に目の細かなる篩にて木灰を振り掛け種子の一粒宛に離るゝまで能く混合せしめ灰と共に下種するを可とす覆土は薄く土を篩ひ掛け其種子の隱蔽するを度とし鍬裏若くば板にて輕く其上を押へ藁を一本並に敷き其上に小丸太又は竹等の押へものを置くべし。

三　山榿を播種したるときは其上に籾殼を種子の見ゑ隱れになる位迄散布す。

四　前月に引續き山出苗を堀り取り並に床替を行ふ即ち落葉濶葉樹並松類特に落葉松を先にし杉扁柏類之に次ぎ常綠濶葉樹を後にす概して本月中旬以降を最好季節とす。

五　床替は堀り取りたる苗木の大小を別ちて二段又は三段とし各別に移植苗圃に植ゆべし而して疵の付きたる根及び長き根を切斷すべし。

六　「マツ」苗の跡地は「ヒノキ」「ヒノキ」苗の跡地は「スギ」苗「スギ」苗の跡地は「マツ」苗の順序

に輪作するを得策とす「ヒノキ」苗の跡地より肥料を要すること多し。

七　樹液の運動を始むる前に苗木輸送を終るべし。

八　接木の好季節なり就中彼岸前後を最良とす樹種により入梅中を可とするものあり。

九　挿木を始む即ち上旬には落葉樹、下旬には針葉樹とす。

一〇　親木の根際より生したる蘖條を分根す。

一一　霜害に注意すべし。

一　植付の好季節なるを以て新植、補植共に鋭意之を行ふべし而して植付樹種の順序は床替に同し元來植樹は土地の凍結融解すれば直に施行して差支なきも就中好季節は樹液の將に運動を始め發芽せんとするの時期にして本月中旬以後彼岸の候を最良となす。

二　江南竹は本月中に黑竹は本月中旬より四月上旬に於て移植す。

三　枝打を續行して可なり樹液の運動を始むる前に終るを要す。

四　三椏の植付を始む。

五　杞柳（コリヤナギ）の挿穗を採り之を畑、土堤、溝側等に挿す。

一　苗圃に於ける晩霜の害並に森林に對する晩雪の害に注意すべし。

二　造林地に於ける雪倒木の手入を始むべし。

三　積雪漸く融解す野火に注意す。

四　松毛蟲樹木に昇り始むる故に「ペンキ」「トリモチ」等を塗抹することを急ぎ一度するも若し其効なき時は又直に塗抹すべし。

五　松の「モノフレバス」蟲成蟲となる。

六　暖なる時は直孔穿孔蟲潛伏處より現出す。

七　杉の黑天牛杉の幹に棲息すれば巡視して捕殺すべし。

八　象鼻蟲を捕獲するには針葉樹の樹皮を剝ぎ巾六七寸長一尺五寸に切り內面を下方に向けて新植地に散布するときは之れに集り來るものなれば取りて殺すべし。

九　苗圃耕耘の場合に金龜子幼蟲を捕殺すること前月に同じ。

十　松類及欅等の播種床には雀、頰白等（鳴禽類）の鳥害に注意すべし之が豫防法は豫め種子を水に浸し鉛丹を混し其乾燥するを待ち蒔付くるに在り。

十一　櫟、樟、樫、胡桃等の播種床には鼠、鳩、雉子等の害あり注意すべし

十二　苗圃に於ける鼠、地鼠の害を防ぐべし特に播種床に於て一層の注意を要す。

一　樹液の運動を始むる前に矮林の伐採を終り蒴芽に支障なからしむべし。

二　彼岸後直ちに杉扁柏の春伐を行ふ。

三　春季伐採の杉の生葉を刻み之を乾燥し水力製粉器にて搗き碎き線香用の粉末を製するも可な

り但し三四月の杉葉は脂氣强きを以て佳良なるも五月を過れば脂氣を減じ冬季のもの亦脂氣に乏しく共に劣等なり。

四 椎蕈春子の發生は地方により又天候の模樣により異るも凡そ本月上旬より五月上旬迄を其發生期とし黄イチゴの花盛りを最好季節となす然れども虎杖（イタドリ）の發芽期及藤の花盛りに於て尙盛に發生す伐採し置きたる原木は引續き小切をなし榾木として積込みをなすべし椎蕈の發生なき地方に於ては積込むべき榾木に胞子を注射するか或は發生榾木若干と共に積込を爲すべし

五 前年萠芽したる杞柳骨（コリヤナギ）の新條を刈取り直に水田又は小溝へ假挿し置くときは新芽を生ずるに至るを以て其一寸許に延びたる頃晴天の日を選み材心に疵の付かざる樣剝皮したる後日光に曝して乾し上け柳行李の材料となす。

六 江南竹林は筍堀取の爲本月下旬より林内の落葉を掃除す。

七 藺製造に關する設備卽ち貯水池の堀設木臼又は石臼及桶の調製並作業小屋の建設又は修繕等をなす。

八 引續き彼岸迄山葵の採取をなし其跡地には直に植栽をなす地下葵の發育を圖るため花軸を摘みて食用す。

九 積雪ある地方は本月下旬より四月に亘り雪解の爲往々谷川汎濫するを以て林道橋梁の保有に注意すべし。

十 雪解水を利用して木材の管流を始む故に堤、矢來其他運材設備に注意し之が補修をなすべし

砂防工事及荒廢地復舊事業

一 前月に引續き松苗其他の苗木を植栽す。

二 雪解の爲流水汎濫する虞ある處は河川工事を中止す。

三 本月より四月に亘り春季洪水に際し其最高水位を測定し置くべし。

狩獵及其他

一 雉、鶯（キジ、ウグヒス）雉は本月一日より十月三十一日まで捕獲することを禁止せり。

二 雉は本月より四月に亘り交尾を始め二ヶ月間繼續して八乃至二十個の卵子を產し巢入後二十四日にて孵化す鶯雉も亦之に類し只少しく遲るゝのみなり。

三 蜜蜂の活動漸く激甚ならむとするを以て防寒設備あるものは之を除き巢箱を掃除乾燥せしめ日中快晴の時のみ巢門を擴大し夕方は之を狹少にし夜間の寒氣を防ぐ善良なる蜜を給與するを普通とす蜜蜂は出遊初期のことゝて怒り易ければ刺されざる樣注意すべし。

四 うぐひ上旬より泝上し始む、小あゆ泝上し始む。

四月

歷

氣節	五日	清明	二十一日
祭日	三日	神武天皇祭	穀雨
雜節	十七日	土用	
朔望	七日	望	二十一日 朔

一 春植の爲破損したる苗圃及造林用の器具其他道具類の修繕を爲すべし。

苗圃

一 中旬まで播種の好季節なるを以て苗床を造り並に播種を行ふ。

二 前月に引續き床替を爲す但新芽及白芽の伸出せざる間に終了するを要す。

三 播種床に於ける早播のものは下旬より既に發芽を始むるが故に被ひ藁取除の時期を誤らざる樣注意を要す但播種の際被ひ藁を一二寸の長に刻みて撒布したる場合は之が取除を要せず。

四 杉、扁柏、花柏(サハラ)、もみ、かし等日光に弱き苗木は播種量の約八分通り發芽するを待ち被藁を除き直に日被を爲すべし。

五 上旬迄山橙の播種を行ひ其上にモミカラを種子の見え隱れになる位散布す。

六 絶えず苗圃を見廻り播種床發芽の模樣、床替苗發育の狀況等を注意すべし。

七 下旬には第一回の草取を爲す其法は左手にて苗木の根元を押へ右手にて草を引拔くべし畦間の雜草は鍬を以て之を削り畦側に土と共に押へ付くべし。

造林

一 前月に引續き林地植栽をなし本月中に終了せしむるも伊香高島郡の高所にありては(寒冷なる地方は)本月に至りて植付を始むるも據なし(但し苗木の假植をなし置くべし)。

二 淡竹苦竹の移植を爲すべし。

保護

一 欅(ケヤキ)、モミジ、ウルシ等の如き二ケ年間に發芽する樹種は殊に霜除に注意すべし。

二 寒地には尙晩霜及晩雪の注意を怠るべからず。

三 引續き造林地に於ける雪倒木の手入を爲すべし。

四 引續き苗圃に於ける鼠(モグラ)、地鼠の害を防ぐこと前月に同じ。

五 苗床にはケラ產卵す巢は母蟲の唾液を以て固結する土塊にして內に灰白色隋圓形の卵子數十個を藏すれば此巢を取り除き又は苗床の周圍に凡そ八寸の深さ及幅を有する溝を設け其底の處々に植木鉢樣のものを埋め其中に陷りたるものを捕殺すべし。

六 一般に林野の地表乾燥甚しく落葉、枯草、苔蘚等實に導火の好材料にして恐るべき火災は唯此一期に在り故に原野に接續せし新植地の如きは特に注意を要す。

七 本月より五月に亘り竹林に水枯病の發生多きを以て病竹は速に伐採し傳播を防ぐに勗むべし且筍の發生期なるが故に生長の見込なきもの又は密生せるものを採收し且竊盜及野猪の被害無き樣保護を怠るべからず。

八 引續き松類及欅等の播種床に對しスヾメ、ホヽジロ、アヲジ及びカハラヒバ等の害に注意すべし。

九 本月より五月に亘り苗圃に於て殊に杉赤枯病に注意すべし若し是を發見したるときは速に被害苗木を燒棄し附近の杉苗木に對してはボルドー液を散布すべし。

十 杉ケムシの幼蟲現出し杉の葉を蝕害す注意して驅除すべし。

十一　杉の黑天牛現はれて杉樹の剝げたる樹皮の下に入りて產卵す。
十二　ノンネの仔蟲發生し松、樅、ぶな等の葉を蝕害すること甚し。
十三　松毛蟲の幼蟲樹上に昇るものあり前月の如く樹幹にベンキ又はトリモチを塗抹す。
十四　中旬には松葉の五倍子蠅現出して二枚の針葉間に產卵す暫くにして幼蟲となり針葉を蝕害す。
十五　松の十二齒穿孔蟲生ず。
十六　幼松象蟲被害樹內に蛹となるを以て之を伐採し林中より取り出し他の樹に傳播するを防くへし。
十七　松の黃葉蜂幼蟲現出し松葉を蝕害す故に群生するときは枝を切斷し或は强く振て幼蟲を落して撲殺すべし。
十八　松の糸掛葉蜂產卵す。
十九　下旬には松のタテジマシャクトリ發生し葉を蝕害す。
二十　直孔穿孔蟲松樹の幹內にありて其縱孔の內壁に產卵す。
二十一　落葉松の五倍子蠅發生す。
二十二　大とひ象蟲現出し枯死したる松樅等の幹部若くは經三分許の根を撰みて產卵す。
二十三　榧(カヤ)の介殼蟲の雄蟲發生し生殖を營む此蟲は榧杉等の葉に寄生し害をなす故に枯色を呈する葉は害蟲の有無を調査し害蟲の存するものは可成之を伐り取り棄つべし又小樹にありては

石油乳劑を灌注すれば効あり。
二十四　中旬には櫟(クヌギ)の葉卷蟲化して蛾となる。
二十五　下旬には櫟の巢蟲現出し糸を吐きて枝間に囊狀の巢を營み之に五六十頭餘の幼蟲群棲し時々這ひ出て、葉を蝕害す故に竹竿の先端にボロを括り付け火を點じて燒き殺すべし。
二十六　櫟の芽葉蟲化して蛹となり又蛾となりて現出す。
二十七　ンラヲヒテフの幼蟲(ブランコケムシ)現出し櫟、ナラ、ポ、ノキ、松、百日紅等に棲息し害をなす。
二十八　信濃蛤蟆の幼蟲現出しナラ、クヌギ、トチノキ、桑、白楊、落葉松等を蝕害す此害蟲は一局部に於ける立木の葉を食ひ盡せば其幹枝を降り他に這ひ行くものなれば其通路に溝を堀り或は太き竹を二つに割り其凸面を地に接し凹面を上に向けて種油にコールタールを混せるもの若くばコールタールのみ塗りて捕殺すべし。
二十九　ヤマガラス孵化してナラ、クヌギ等に棲息し其葉を蝕害す此害蟲には寄生蜂の寄生すること多し故に務めて寄生蜂の增殖を計るべし。
三十　櫻の異形穿孔蟲發生し櫻、ブナ、其他數種の果樹の幹內に蟲孔を穿つ一年二回の生殖をなす(第二回は七八の兩月間とす)幹內に開ける蟲孔はタール若くは蠟類にて閉塞し或は蟲孔に木楔を差入れ驅除すべし。
三十一　栗蟲の幼蟲シラガタロウ發生し栗、百日紅、樟、櫸、胡桃等の葉を蝕蟲す此蟲は孵化し

たるときは產卵ケ所に群生するが故に此時に驅除すべし。

三十二 楊の泡蟲現出し楊に棲息し泡にて全体を包み嫩枝の養液を吸收して害をなす之を驅除するには石油を入れたる小鑵の類を被害枝の下に横へ木片若くば竹片を持ちて害蟲を打ち落して殺すべし。

三十三 柳のイモムシフテの蛾現出す。

三十四 クロウメモドキ、介殼蟲膨大して球狀の雌虫となる此時被害樹を調査するときは容易に雌蟲を檢出することを得べし故に幹枝より離し取りて燒殺すべし。

一 雪解の出水を利用し盛に木材の川狩を行ふことを得。

二 杉林春伐の好季とす蓋し剝皮容易剝膚鮮明なり唯心材の色澤は稍秋伐のものに劣る此杉皮は蟲害に罹り易し。

三 秋季に行ふ主間伐の實査をなす。

四 單寧用櫻皮の採收に着手す其最好季節は樹液の流動を始め樹皮の剝皮容易なる時卽ち新葉の將に發芽せんとする直前にあり櫻皮に次き染用並鞣皮用に供すべきものは化香樹皮、黃蘗皮檜皮、椎皮、楊梅皮、胡桃皮等なり。

五 藕の原料卽ちモチノキ皮剝をなし之を水に漬し置き七月頃より藕の製造に着手し寒冷の候に至りて中止す。

六 中旬より八月に亘りアベマキの表皮を剝取して塞子を製造す。

七 棕櫚の皮は四月、七月及十月に各一度つゝ卽ち年に三回都合十二枚を採取し得又四季に剝ぐ處あり元より地質と培養とに從ひ差別あり。

八 野生の百合根を堀り百合粉を製し又車前葉山慈姑の根よりカタクリ粉を製す。

九 本月より六月下旬まで蕨粉春季製造を爲す。

十 岩茸は深山の懸崖に簇生す。

十一 ワラビ、ゼンマイ、ウド、イタドリ、ミツバ、フキ、ワサビ、カタクリ、ダラメ等の副產物採收を始め其好季節に及て干蕨、干紫蕨、干獨活、及干欵冬等を製すべし。

十二 上旬は引續き椎茸樺木の積込をなす。

十三 山葵栽培地に在りては落葉其他塵介等を掃除し養水を常位に復す。

十四 前月に刈取り水田中に挿し置きたる杞柳の發芽せんとする頃剝皮し清水にて十分に洗ひ能く日干にす、挿苗の新芽三四分に生長したるときは根元を少しく堀りて一番肥と稱し一株一合位の割にて人糞を與ふ。

一 新工事區域の山腹法切をなすと同時に法切の爲め（山腹法切は一割五分の勾配となすべし）降下する土砂の流出を防止するを要し谷止工（小土堰堤形のもの）を施設す。

一 本月十五日を以て狩獵の最終期日とす。

二　鷹類は四五月の頃三四個の卵子を産す。

三　養蜂は五月に掛けて年内に最も繁忙の期なり蜂群の繁殖を計るべし本月より五月にかけて多くは午前十時頃より午後三時頃迄に分封す分封群を收容する際には蜂王を取逃さぬ樣に注意し且其巣箱は日蔭に置くを良しとすトジ蟲の繁殖期に付注意を要す。

四　イワナ(嘉魚イモウヲとも云ふ)上流にて釣にて捕ふ又アマゴ(鱒の稚魚)釣に掛ることあるも身長八寸未滿のものは縣令にて禁漁せらるウグイ中旬より下流にて産卵を始む溜池養魚者は鱒を取揚げ更に鱒兒を放養す。

五月

暦（氣節　六日　立夏　二十二日　小滿
　雜節　二日　八十八夜
　朔望　七日　望　二十一日　朔）

内業

一　雨天の節春植の爲破損したる苗圃及造林用の器具類の修繕をなすべし。

二　春季に於ける苗圃及植樹事業に對し關係諸帳簿の整理をなすべし。

苗圃

一　杉、扁柏、花柏、樅、樫等日光に弱き苗は其播種量の約八分通り發芽するを待ち被蓆を除き直に日除をなすべし日除には幅四尺位の葭簀を用ひ南面を低く北面を高く斜に覆ふ夜間は之を取除くを良とす。

二　湖北地方に於ける床替は本月上旬に終るを普通とす。

三　床替濟の苗畑にして新芽延び始めたるものに施肥を始む肥料の種類は豆糟、油糟、米糠、鰊粕、人糞尿及人造肥料等種々あるが故に能く畑地の土壤に適應せるものを選び宜く苗木の性狀に鑑み適應に之を施すべし殊に播種床には極めて其分量の稀薄なるを要す。

四　樫類其他常綠濶葉樹の床替を爲すべし。

五　雜草生したる畑の草取を始む殊に播種苗圃の除草に注意すべし。

六　苗圃の内外に於ける排水溝の浚渫を爲すべし。

七　朝夕絶へず苗圃を見廻り播種床發芽の模樣、床替苗發育の狀況及被害の有無に就き注意すべし。

八　苗床に於ける枯衰木を拔去り又梢頂に叉あるものは其强盛なる梢を殘し他を切り去りて直幹を得んことを力むべし。

九　苗木發生良好ならずして疎立するときは蓆を五分位に切りて之れを散布すべし。

造林

一　湖北に於ける林地植栽は本月を以て終りとす。

二　引續き淡竹、苦竹の移植を爲すべし。

三　新植地を見廻り倒れたる苗木を起す等手入を爲すべし。

四　樫類其他常綠濶葉樹の植栽を行ふ。

五　此月を以て林地植栽を完了す。

一　俗に八十八夜の別れ霜と稱し尙本月上旬に於て晩霜の害を被むることあり特に稚苗に注意すべし。

二　國境に於ける杉、扁柏林は本月より六月に亘り往々熊の爲に剝皮の害を被ることあるを以て此季節に於ては時々空砲を發しつゝ林内を警戒すべし

三　材木の新芽（漆、サイカチ、タラノキ等）を食料として採取せらるゝの虞あるを以て注意すべし。

四　杞柳の新芽發生して其長一尺余とならば眞直なるもの一本を殘し其他の傍芽を摘去すべし。

五　椎蕈積込地の雜木林は新葉附着し爲に光線の射入及通風を害するにより適當に枝葉を伐採し又地上の過濕を除く爲落葉を除去すべし。

六　山葵畑には大雨の際濁水の流入せざるよう注意すべし。

七　松の介殼蟲發生產卵す。

八　松の泡蟲松樹の軟かなる梢葉に發生す。

九　松の「モノフレバス」蟲產卵す。

十　松の「イモムシ」の蛾現出して松樹に產卵す下旬に至れば孵化して幼蟲となり葉を蝕害す。

十一　松の糸掛け葉蜂の幼蟲現出し松葉間に糸縷を縱橫に張り粗繭を營む。

十二　松の「タテジマシャクトリ」老熟し松樹を下りて土中に入り蛹となる。

十三　松の黃葉蜂の幼蟲老熟して松葉の間に繭を營む。

十四　松ケムシの幼蟲潛伏所より現出して松樹に這ひ上ること多し故に前月の如く際根を距る五六尺許の幹面に帶狀に「タール」又は「トリモチ」を塗附するを要す。

十五　松果の象蟲現出し好んで嫩芽嫩果を蝕害す。

十六　松の褐象蟲の成蟲現出し松の嫩葉を蝕害す。

十七　直孔穿孔蟲孵化して幼蟲となり松樹を害す。

十八　松の綠葉蜂化蛹す取り集めて殺すべし。

十九　杉「ケムシ」の幼蟲杉の葉を蝕害す。

二十　杉「コガネ」老熟して蛹となり次で成蟲となる此際には其發生地の側に點火して之を誘殺し或は早朝未だ露の乾かざる時に於て被害樹を振り動かし地に落下するものを拾ひ集めて撲殺すべし。

二十一　杉の赤天牛杉樹を害すれば嚴く捕へて撲殺すべし但し日當り好き場所に植ゑ付けたる杉樹には此害蟲に罹るもの多く陰濕の地に植付けたるものには少なきが如し是れ植樹上注意すべきことなり。

二十二　杉の黑天牛孵化して幼蟲となり通常樹枝に接する幹部に曲孔を蝕ひ開き尙深く幹内に入

り害をなす故に剝し起きたる皮の裏面を調査し蟲卵を檢出せば（卵子は紡綞狀にして長く白色にして光澤あり）其側に於ける杉皮は悉く剩き取り燒き棄つべし又著しく勢力を失ひたる被害樹は伐去るべし。

二十三 杉の芽蝕蟲現出して杉樹に棲息し其葉を蝕害するものなれば被害樹の下に「ゴザ」「ムシロ」類を敷き害蟲を打落し集めて撲殺すべし。

二十四 粗樅の尺蠖の幼蟲出でゝ粗樅の葉を食とす下旬に至れば老熟して糸を吐き數葉を纏めて巢を作り蛹となる。

二十五 櫟の葉卷蟲現出し「タヌギ」「ナラ」等に棲み糸を吐きて葉を卷き巢となし害をなす。

二十六 日光「ケムシ」蛾となり食樹の幹樹に產卵す嚴しく之を集めて潰殺すべし。

二十七 「ホタルラフ」の幼蟲現出し「ヒサカキ」「サカキ」等に棲息し其葉を蝕害す故に被害の幹枝を振り落して撲殺するか又は殺蟲劑を噴霧器にて振り掛くべし。

二十八 柳の毛蟲現はれ柳に生息して葉を蝕害す。

二十九 檜の新芽尺蠖老熟して糸を吐き葉を集めて巢となし蛹となり後一二週日を經て蛾となる

三十 檜「ケムシ」現出し栗櫟檜等に棲息すれば振り落して殺すべし。

三十一 「ヨツメムシ」樹幹內に於て蛹となり化して成蟲となり食樹に產卵す。

三十二 「エゴノキ」の綿蟲の成蟲及幼蟲共に「エゴノキ」に寄生し其養液を吸收す故に「ネスレル」氏液（軟石鹼十匁、アルミール火酒十三匁、火酒五十二匁を混合し使用の際には此合液に十

一倍の水を加ふ）を注射すべし。

三十三 柳の泡蟲現出し楊柳等に棲息し其葉を食とす故に竹竿にて敲き落して撲殺すべし。

三十四 竹「ケムシ」現出し竹檜等の葉を食とし害を爲す又「ムラサキ」蛾出てゝ竹葉を食す。

三十五 櫟巢蟲老熟して葉間又は土際に繭を營み蛹となる。

三十六 櫟の「ケムシ」出でゝ櫟の葉を食害すれば直に捕獲すべし但し此蟲には一種の蠅寄生すれば其寄生を受けたる幼蟲の如きは益增殖を計るべし。

三十七 樫の介殼蟲現出し日陰若しくは風通しの惡しき處に植ゑ付けたるものに寄生すること多ければ幹枝に就て搜索し撲殺すべし。

三十八 「マサキムシ」老熟し二三葉を綴り合せ其內に入り灰褐色の繭を營み蛹となる故に繭を集めて驅除すべし。

三十九 梅の蚵蟲發生し梅の新條に群棲し其發育を妨ぐ故に被害部に石油乳劑若くば殺蟲菊の粉末又は魚油乳劑を振り掛くれば效あり（但し石油も亦驅蟲の効あれども新芽を傷くるの恐あれば猥りに使用すべからず）。

四十 櫻の蚵蟲櫻の葉に五倍子を造り之れに棲息す五倍子は常に葉面に生ずるものにして其形恰も長莢の如し故に之を取り集めて燒棄つべし。

四十一 柳葉蟲の甲蟲現出して柳に生息し其葉を蝕害すること甚しく幼蟲も亦同時に葉を蝕害し而して葉面に群棲するものなれば被害の葉は枝と共に切り取り潰殺するを良とす又成蟲及幼

蟲の枝に棲息するものは木灰汁其他殺蟲劑を注射して驅除すべし。

四十、「ルリアゲハ」蝶現出し樟桂等の葉に產卵す故に時々樟桂類を檢し其葉上に棲止するを見れば其葉を調査して卵を潰殺すべし、

四十三　「ヤマナラシ」葉蟲現出し其葉を蝕害す故に此時は早朝樹幹を振り害蟲を落して潰殺すべし。

四十四　苗床の赤金龜子の成蟲現出し杉其他林樹に飛び來り其土中に產卵す而して幼蟲は苗木の根を蝕して枯死せしむ故に時ならずして苗木の枯死するものあらば之れを拔き取り其跡を堀起して害蟲の有無を調査し集めて驅除すべし。

四十五　栗天牛多くは本月に至り成蟲となりて產卵するにより發見次第之を殺すべし。

四十六　栗蟲(白毛太夫)の幼蟲孵化して栗樟等の葉を食害するが故に之を驅除すべし。

一　引續き春水を利用して盛に川狩をなすべし。

二　樹皮の剝ぎ得るを待ちて可成早く間伐に着手すべし。

三　引續き秋季行ふべき主伐及間伐の實査をなすべし。

四　國境附近の山地を除く外大概炭燒を終り炭夫は農業に從事す。

五　本月より六月に亘り主として苦竹類の筍より竹皮卽ち籜を採集すべし。

六　本月より六月に亘りシナノ木を伐採して直に外皮を去りたる後精皮を剝取り約十日間之を乾し更に十日間水に浸したる上木灰を塗り約五時間煮沸して之を清水にて洗ひ乾燥せしめたるものを細裂して織物其他の原料となす。

七　葛布原料に供する葛蔓を採取するには五月上旬より九月上旬迄とす最初に取るを一番芋と稱し品質良好なり。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一　前月に引續き山腹法切を施行す養蠶の時期なれば人夫を得ること困難なり。

狩獵及其他

一　初旬の候より十月頃に至るまで蝮(マムシ)、蛭(ヒル)、蟲(ダニ)、虻(アブ)の如き毒蟲出現する爲或は林内に於ける執業を妨げられ又は林野跋涉の際不慮の災厄に罹ることあり特に蛭は梅雨の候に多く蝮は八九月頃最も危險なり。

二　熊類は五六月の頃交尾し姙娠八ヶ月にして翌年一二月頃分娩す其產仔數普通一二頭なるも稀に三頭に達することあり。

三　雉鳩の類は五六月の頃に於て二三個の卵子を產す。

四　大鮎(若鮎の成長せしもの)下旬より上流にて友釣又は引懸にて漁獲を始む。ニゴイ中旬より泝上を始む。下旬ウグイの產卵盛なり。ハス泝上し始む。

五　養蜂に於て本月は最上の收蜜時期なり、巢門は蜂の出入に便する爲めと水分蒸發を容易ならしむる爲充分擴大すべし、蜂群購入の最適期なり本月より蜻蛉發生し蜂を捕食するを以て注

意して驅除すべし。

六月

暦 氣節 六日 芒種 二十二日 夏至
暦 雜節 十一日 入梅
暦 朔望 五日 望 十九日 朔

内業

一 前月に同じ。

苗圃

一 除草を怠るべからず殊に播種床に於て然りとす元來苗圃手入の要は斷わず循環除草を行ひ草類をして發生するの暇なからしむるに在り故に俗に常に草を追ひ決して草に追はるゝ勿れと云へり斯くせば其結果は却て費用少くして苗木の成長良好なるものなり。

二 可成曇天降雨前又は細雨の日を選み施肥を爲すべし。

三 梅雨中は苗木の成育上日除けを取拂ひ置くを得策とす然らざれば陽光不足の爲め苗木過長薄弱となることあり。

四 常綠濶葉樹並針葉樹類の挿木をなすべし。

五 苗床の局部に團狀をなし苗木の枯死することあらば直に其局部に石灰を散布して土を覆ひ鋤を以て靜に堀り取り藁を以て蒸し燒きにし他の全面には「ボルドー」液を灌きて消毒すべし。

造林

一 造林地の下刈を始むべし即ち溪間其他荊棘草の繁茂甚しき所より順次着手し夏期中二回刈を要すべき箇所に於ては可成本月中に第一回を終るべし而して下刈の目的は力めて低く荊棘雜草を刈り拂ひて苗木の被壓を防ぎ之れを林地一面に撒布し置き其儘腐朽せしめ苗木の肥料と爲すにあり。

二 竹類は本月に至り筍の生長して籜を剝離し枝を出したる頃即ち入梅中を以て移植の好季節とす即ち一二年生の竹幹を可成大株に堀り取り枝四五階を殘して幹梢を切り去り以て移植するに在り古諺に云一人持の竹株は十年にして繁り十人持の竹株は一年にして繁ると。

三 江南竹林に於ては新竹の下枝二階位の籜を剝離し枝を出したるを待ち幹を振動して其十一二節より上部を折り根の發育を完全ならしむ。

四 江南竹、苦竹、淡竹の類は其林内の新竹に一々年度を記入し置くべしさすれば伐採の節頗る便利を得るものなり。

保護

一 梅雨に際し苗圃及林道溝渠の排水に注意すべし。

二 出水の爲め道路破損し堤防決潰することあり可成速に修繕すべし。

三 松の泡蟲成蟲となる。

四 松の「モノフレバス」蟲孵化す。

五　松の糸掛け葉蜂老熟して糸繭を吐き松樹より垂下して土中に入り蛹となり一二週間を經て成蟲となり越冬す。

六　杉の「コガネ」の成蟲多く現出して杉に群集し其葉を蝕害す故に發生地に於ては點火して誘殺するか又は早朝被害樹を振り動かして落ちたるものを拾ひ集めて殺すべし。

七　松「ケムシ」老熟して粗繭を營み蛹となる。

八　松の「イモムシ」樹幹を下り土中に入り蛹となる。

九　松の心蟲現出し莖軸内に棲息し其髓部を蝕害す。

十　松の「タテシマシャクトリ」蛾となり松葉に產卵す。

十一　幼松象蟲出でゝ松樹の老若に拘らず樹皮の滑かなるものに產卵す。

十二　松の芽虫の蛾出でゝ幼少なる松樹の新芽に一個づゝ產卵す。

十三　白點象虫四年乃至八年を經たる松樹の根際より三尺許の處に產卵す此害虫發生地に於ては一二本の立木の樹皮を剝きて衰弱せしめ餌樹とし之れに集めて驅除すべし。

十四　松木蜂飛翔し虫類を捕へて食とす雌虫は松樅の新に伐採したる木幹に下卵器を衝き入れて產卵す。

十五　松の綠葉蜂の成虫現出し松葉に產卵す。

十六　松毛虫其他の害虫より傷害せられし樹木全く其葉を盡くるに至れば之に附着せる幼虫は移轉するものなれば其近傍に溝を堀り或は綠葉の附着せる枝を放置して集殺すべし。

十七　楪の葉卷虫老熟し捲葉の中或は土中に入りて蛹となる。

十八　楪の巢虫化して蛾となる。

十九　信濃「ケムシ」の幼虫老熟して蛹となり下旬には化して蛾となり食樹の幹枝に數百粒の卵子を群付し体毛を以て之を覆ふ。

二十　日光「ケムシ」の幼虫現出し楢、楪を蝕害す其害甚し故に被害樹より之を振り落し踏み殺すか又は布袋を製し箸の類にて摘み取り右の布袋に入れて潰殺すべし。

二十一　楪天牛の幼虫「キクヒムシ」老熟し蛹となる此幼虫を寄生したるときは樹面に圓孔を開き虫糞木屑を漏出するを以て直に右圓孔より殺虫液を注入すべし又被害部枝なるときは直に之を切り取るべし。

二十二　粗榧の尺蠖化して「キラテフ」となる。

二十三　楪の赤筋毛虫化して蛾となり幹枝に產卵す。

二十四　「シラオヒテフ」の幼虫老熟して糸を吐き其尾端を幹枝に固着し垂下して蛹となり下旬には化して蛾となり幹枝に產卵す卵は一ケ處に數十粒宛產付し体毛を以て之を覆ふ恰も灰黃の毛塊を見るが如し故に冬日被害樹を見廻り餘さず之を潰殺すべし。

二十五　毛長毛虫老熟して糸を吐き幹枝に粗繭を營み蛹となる。

二十六　柳の「イモムシテフ」老熟して蛹となり冬日を經過す繭は幹枝或は樹皮の裂目に營むものにして其形楕圓灰褐色を呈す搜索して殺すべし。

二十七 女竹の「クロテフ」の幼虫現出し女竹の葉を食とす捕へて撲殺すべし。

二十八 「ヤマガラス」老熟し緑色繭を幹枝に營む楢の「ケムシ」老熟して蛹となる。

二十九 赤樫の介殼虫其樹の幹枝に付着すれば小枝なれは之を切り取り幹若くは太き枝ならば之を掻き取るべし(但し幹枝に白斑の點々存するものは此害虫なり)。

三十 「ヨツメムシ」の幼蟲栗、抱、楪の幹内に棲息し害をなす故に樹皮面に開きたる蟲孔より殺蟲液を注入し殺すべし。

三十一 「ホタルテフ」の幼蟲老熟して葉枝間に灰色の繭を營み蛹となる故に葉を卷かしたるもの若くは二三葉の綴り合せたるものは總て之を集めて撲殺すべし。

三十二 「ツバキ」の介殼蟲生殖し「ツバキ」の幹枝に寄生して其養液を吸收す苗木或は盆栽の「ツバキ」に其害甚しとす故に其附着部を竹篦若くは竹片にて掻き取り又は石油乳劑若くは魚油乳劑を塗り驅除すべし。

三十三 緑「アミガサゼミ」の幼蟲「ワタムシ」現出し「ホ、ノキ」「イヌツゲ」「ボケ」茶等に棲息し其新條に止まりて養液を吸收す此蟲の發生したるときは幹枝白色を呈するか故に普通の掬蟲網を取りて被害幹枝の側に其網の口を向け幹枝を振りて蟲を網中に落し一時に之を撲殺すべし。

三十四 柳の鐵砲蟲の蛾出で、種々の濶葉樹の根部に於ける樹皮の剝目に産卵す幼蟲は材部に蝕入り不正の蟲孔を穿つ此蟲害を受くる處は幹の下部にして根際を距ること約六尺許とすされば之を防ぐには樹幹の下部に「コールタール」其他「モチ」類を塗抹して産卵を豫防すべし。

三十五 柳天牛の幼蟲柳柑橘類の幹内に寄生し其材部を蝕害するものなれば樹幹に蟲糞を漏出するを見るときは其孔より殺蟲液を注入すべし。

三十六 椎蕈椿木に蝸牛、「ナメクジラ」雜菌等の害あるを以て驅除すべし。

三十七 山葵畑に於ける養水に注意すべし。

利用

一 皮付の儘造材したる丸太は入梅の候に於て蟲害を受くること多し注意を要す。

二 引續き運材をなすべきも農繁時にして灌漑の必要上谷川を堰き止むる地方に於ては木材の川流して爲すことを得ず。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一 前月に引續き山腹法切をなす田植時なれば人夫を得ること難し。

二 法切の竣成地に積苗工筋工等を施設すべき階段を堀鑿す但し筋工にありては直高三尺五寸乃至四尺毎に幅一尺二寸の水平階段を堀鑿す。

狩獵及其他

一 兎交尾す。

二 雁類は北地に於て本月頃産卵す。

三 「アマゴ」入梅期に入り下流に下り湖に入るもの多し「ニゴイ」中旬より下流に於て産卵す、大

鮎の友釣り盛なり。

四　養蜂にありては本月を以て收蜜作業を終了す、分封は絶對に防遏するを得策とす、巣箱は殊に清潔且乾燥せしむるに力むべく又日本種は「トヂ」蟲の害に罹り易きを以て其幼蟲、母蛾は見付次第に捕殺すべし。

五　蜂蜜は樽、又は石油罐に入れ密封し温度の變化少き暗室内に貯藏すべし、純良なるものは永く腐敗せず。

七月

暦
氣節　八日　小暑　二十三日　大暑
祭日　三十日　明治天皇祭
雑節　二日　半夏生
朔望　五日　望　十九日　朔
月蝕　五日

一　梅雨霽るゝを待ち播種床に日除を爲すべし。

二　黴菌の害は多く梅雨中に發生するを以て斯の如き虞ある苗圃に於ては梅雨の止みたる後能く乾燥せしめて害菌の撲滅を計るべし。

三　雑草の繁茂彌々盛なるを以て除草に關し一層の注意を要す。

四　苗圃乾燥の虞あるときは青草を一寸位に切截し之を苗床に撒布すべしさすれば能く床地の乾燥を防ぎ雑草の發生を妨げ剩へ肥料となるの利あり若し青草に乏しきときは藁を代用して可なるも藁は翌年に至り尚腐朽せざるを以て往々害蟲發生の媒介たることあり。

五　旱天打續き床地著しく乾燥して苗木枯稿の兆あれば除草を中止し適當の日除をなすを可とす或は日出前又は日没後土壌の充分濕潤する迄水を灌ぐべし然れども斯く灌水を始むるに於ては爾後降雨ある迄毎日連續施行せざれば却て害あるか故に乾燥甚しく最早堪へ得べからざるに至る場合の外は可成灌漑に著手せざるを可とす灌水に關し少量の水肥を混ずるときは爾後日々灌水せざるも能く乾燥を防ぐことあり。

六　普く苗木の生育に注意し其不良なる箇所に施肥し以て生長の一齊ならんことに力むべし。

一　春季植付の苗木にして未だ充分に根付き居らざるものは本月の天候如何により枯損するもの多し油斷すべからず。

二　引續き下刈を勵行すべし。

三　成林の蔓切に從事すべし。

四　竹林内を堀起して堆肥、落葉又は藁等の腐朽したるもの魚腸肥、獸類の屍体、骨皮其他總て硅酸及燐酸多き肥料を施し力めて土壌を肥沃ならしめ以て翌春に於ける筍の發生を促すべし江南竹林にては七八月より十一月の頃に於て新根の先端を地表に露出したるときは其箇所を

深さ一尺五寸程に堀り之に腐敗せる落葉、麥稈、麥糠の類を入れ新根を其上に導き末端を稍上向けになし土を覆ふ之を根埋と稱し毎年怠なく之を行ふべし然らざれば竹根地表に露出して良筍を生せざるに至るものなり。

五　秋植豫定個所の測量及地拵に着手すべし。

一　「ノンネ」の幼蟲蛹となる。

二　松の十二齒穿孔蟲生す。

三　松皮の暗色穿孔蟲成蟲となり產卵す成蟲は大抵三年乃至十年を經たる松樹の樹皮若くば土中の主根を噛み害をなす。

四　幼松象蟲の幼蟲樹皮内に幼蟲孔を蝕開く。

五　松の「シンクヒ」穿孔蟲松樹の新幹内に蝕ひ入り長溝を穿ち髓部を以て食とし害をなす。

六　直孔穿孔蟲老熟して蛹となり中旬には化して成蟲となり松の新梢に小孔を蝕ひ開きて之れより中に入り髓部を蝕害す故に松の梢の枯色を帶びたるもの又枯梢の地上に落ちたるものは蒐集して燒殺すべし。

七　松木蜂、飛翔する前月に同じ。

八　松の綠葉蜂の幼蟲松類の苗木を蝕害す搜索して驅除すべし。

九　杉「ケムシ」の幼蟲老熟して枝上に粗繭を營み蛹となる。

十　松「ケムシ」化して蛾となり松樹の梢部に存ずる嫩芽を選みて產卵す。

十一　松の心蟲害をなす。

十二　「ノンネ」蛾現出し杉樅「ブナ」等の樹皮の下に卵子を群產す。

十三　「オホスギムシ」の幼蟲老熟して土塊を以て繭を營み蛹となる之を驅除するには土地を鋤き起して害蟲を集むるか又は家禽を放ちて之れを啄食せしむるより外なし。

十四　杉の「アカグモ」杉の葉に產卵し赤「インキ」を點付する如き觀あり此蟲の害を受くる杉は林地に植付けしより五六年間にあり幼蟲成蟲共に口器を針葉の内に挿入し養液を吸收するを以て害多し之を驅除するには早朝及曇天の日針葉を集めて薰烟するときは單簡にして効あり「ニガキ」或は煙草の浸液を灌ぐも効あり。

十五　杉の「ハムシ」發生し成蟲は杉及扁柏の稚少なる樹の葉を食して害をなす故に振り落して「ブリキ」罐に石油を準備し其内に入れて殺すべし。

十六　苦竹綠天牛苦竹の幹内に棲息し其組織を蝕害す此時は幹面に蟲孔を開き蟲糞漏出するを以て被害の竹幹は之を取集めて驅除すべし。

十七　栂の害蟲老熟し糸縷を吐き葉間若くば幹枝に繭を營み蛹となる又下旬には蛾となり葉上に數十粒の卵子を產付く。

十八　信濃「ケムシ」孵化して幼蟲となり再び植物を害し冬日を經過す。

十九　檜の「ケムシ」の蛾現出し食樹に產卵す。

二十　緣「アミカサセミ」成蟲となる。

二十一　苦竹蛾蟲現出し竹葉に棲息し害をなす驅蟲劑を散布して驅除すべし。

二十二　女竹「クロテフ」老熟し枝葉に楕圓の繭を營み蛹となる之を搜索して潰殺すべし。

二十三　櫟の穿葉蟲發生し櫟檜の葉組織内に蝕ひ入り之を食ひ表皮のみを餘す。

二十四　青葉金龜子發生し櫟檜等の葉を食し害をなすこと甚し此蟲は天氣溫暖にして無風なるときは擧動活潑なるも其淸涼なる時若くば早朝にありては不活潑なれば此時期を失はず被害樹より振り落し集めて殺すべし。

二十五　柳天牛の成蟲現出すれば被害樹を調査し捕殺すべし。

二十六　「ルリアゲハ」の幼蟲出で害をなす此時成蟲猶飛翔す。

二十七　暴風雨出水の虞あるを以て注意を怠るべからず。

二十八　椎蕈楢木に蝸牛「ナメグシラ」雜菌等附着するを以て引續き驅除すべし。

二十九　引續き山葵畑の養水に注意すべし。

一　春伐を行ひたる杉材は既に乾燥せるを以て上旬より之が造材に着手す但間伐材は多く樹陰にあるが爲主伐に比し乾燥遲るゝを以て下旬若くば八月上旬に至り造材するを適當とす。

二　杉の磨丸太を製するには本月下旬より八月中旬に亘り伐採するを良とす。

三　杉扁柏にありては夏季土用入後に於ける伐採を秋伐と稱し之を伐木の好季節とす蓋し杉、扁柏を秋伐すれば其樹皮は春伐のものゝ如く蟲害に罹ることなく其木材は乾燥中霖雨に遇ふこと少き爲材色美なるを以てなり。

四　前月に引續き農繁時にして且谷川の用水堰尙使用せらるゝ爲め地方によりては充分に木材の搬出をなすこと能はず。

五　土用前後に「アベマキ」樹皮の採集を爲す卽ち樹齡三四十年生のものを撰み地上二間位の高さ迄樹幹の上下に斧又は鉈を以て横に切目を付し其中間に縱に切目を付して剝皮す。

六　本月下旬より翌年三月迄の間に尖鋭なる鐵杆を以て松樹伐採跡地に於ける土中を衝き茯苓を採收すべし。

七　杞柳の春苅の際殘し置きたるものゝ内十分に發育したるものゝみを土用入後五日目位より可成日沒時に刈り取り一夜間河水に浸し置き翌日午前中に剝皮を終り十分乾燥すべし。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一　前月に引續き工事を施行す農繁にして人失を得ること困難なり。

二　新工事の設計に從事す。

狩獵及其他

一　鱒(アマゴの成長したるもの)湖水より泝上し始むハスは下流にて產卵盛なり。

二　養蜂にありては最も靜肅に保たしめ育兒を强ひす且貯蜜を多からしめ又巢箱は凉しき場所に置きて炎暑を避けしむ蜜蜂若し逃去せんとする恐あるときは之に給餌して豫防すべし引續き

「トジ」蟲の害あるを以て巣内を清潔にし夕刻巣門を窺ふ「トジ」蟲の母蛾を捕殺すべし。

八　月

暦（氣節　八日　立秋　二十四日　處暑
　　祝日　三十一日　天長節
　　朔望　三日　望　十八日　朔）

苗圃

一　引續き叮嚀に除草を行ふべし。
二　灌水及施肥に注意すること前月に同じ。
三　秋季床替を行ふべき床地を耕耘すべし。
四　暴風雨の時期なるを以て排水に注意すべし。

造林

一　造林地下刈及成林の蔓切りを續行すべし而して夏季中二回下刈を要すべき箇所に於ては多く本月より九月に亘り第二回刈を行ふを普通とす。
二　春季植栽の苗木にして本月土用明けの頃に至り能く根付き居るものは最早枯損の虞なきを以て本月より九月中頃に亘り普く植栽地を巡視して其枯損部分を實査し春植の成績を明瞭にし且補植に要する苗數等を見積るべし。

保護

一　土旬には「ノンネ」の成蟲產卵す一蛾の產下する卵數は約二百五六十箇にして二十、五十或は百粒つゝ樹皮面に存ずる裂目に產付す。
二　二星蝗發生し幼松の幹部を咀嚙す。
三　松「ケムシ」孵化して松葉を蝕害す。
四　松の心蟲老熟して莖軸に於て蛹となる。
五　杉の「ケムシ」の成蟲現出して杉に產卵し下旬には孵化して幼蟲となり越冬す。
六　「オホスギ」（一名「カキコガネ」）現出し杉の葉を蝕害すれば早朝低溫の時に於て被害樹の幹を敲き或は枝を振りて墜下し袋中に集め殺すべし。
七　松の芽蟲新芽内に蝕ひ入り害をなす。
八　白點象蟲化蛹す。
九　直孔穿孔蟲の驅除をなす前月の如し。
十　松木蜂飛翔すること前月の如し。
十一　杉の赤天牛老熟して蛹となる。
十二　赤蜂現出して軒下其他濶葉樹或は杉の幹枝に大低徑一尺前後の巣を營み雌蟲は同時に產卵す此蟲は果樹園に飛び來りて種々の熟果を害す故に夜蜂の巣中に集りたるを待ち竹竿の尖端に「ボロ」を括り付け之を石油に浸し火を點じて燒殺すべし。
十三　松の綠葉蜂老熟し葉間若くば梢部に這ひ行き繭を營みて蛹となる。

十四 女竹の「クロテフ」の蛾出てゝ女竹の葉に十五粒の卵子を一纒に產付す。

十五 楪の赤筋毛蟲現出し楪の葉を蝕害すること甚だし此毛蟲は重に群棲するものなれば其枝を切り取り撲殺すべし又此毛蟲には一種の寄生蜂ありて自然の驅除を爲すことあり。

十六 楪の毛蟲老熟して土際に下り絲を吐き長楕圓の粗繭を作り蛹となり冬日を經過す。

十七 毛長毛蟲幼蟲發生す。

十八 日光「ケムシ」の幼蟲老熟して蛹となり冬日を經過す。

十九 檜の新芽尺蠖現出し檜の新芽に棲息し之を蝕害す其形狀着色新芽に酷似するを以て嚴しく新芽に就て搜索し之れを殺すべし。

二十 栗蟲化して蛾となり食樹の幹枝に數十顆の卵子を群產す。

二十一 栗の實蟲の成蟲栗蟲の未だ熟せざるに先ち之に卵子を產付す。

二十二 桐の鐵鉋蟲現出して桐幹に產卵す幼蟲は材質內に蝕ひ入り縱孔を穿つ故に其所在を認むるときは其蟲孔より殺蟲濟を注入するか若くは細き紙よりに少量の火藥（驅蟲火藥法は火藥九匁杉灰二匁樟腦一匁を混合し細き竹に詰め込み用ふべし）を包み入れたるものを幹內に差入れ其一端に火を點ずれば之を驅除することを得。

二十三 蜜蜂巢に「トヂ」蟲（蠟蛾）の幼蟲發生し蠟、蜜、及花粉を食し大害をなすものなり、此害は日本種に於て甚しく西洋種に於て少し、此害を除くには蜂群を强盛ならしむると共に巢箱の底板を常に掃除し若し底板上に暗褐色又は黑色粉末狀の蟲糞を發見せば速に巢脾を引き出し

日光に透して幼蟲を探し針にて突殺すか又は巢框の一端を打ちて幼蟲を振り落し捕殺すべし

一 針葉樹秋伐の好季節とす、杉の八月伐は剝皮容易、剝膚鮮麗、乾燥至便にし心材の色澤、木香共に適度なるを以て一年中の最良季節とせり又扁柏も秋伐のものは乾燥速にして光澤良く割裂の虞尠きを以て主伐間伐共に總て秋伐を可とし杉に比すれば乾燥速なるを以て伐木後皆伐材は二ヶ月、間伐材は三ヶ月の後造材するをよしとす丸太材の儘使用するもの及乾燥不便なるか又は運材困難なるものは春伐を可とすれども樽丸、溜樽、板等の如き加工用材に供するものは秋伐を可とす。

二 濶葉樹は其特性として造材後伸縮を生して割裂甚しきものなるが故に是亦秋伐を可とし建築用のものは五六ヶ月を經て造材し尙ゝ一年以上乾燥せしむるを要す。

三 地方に依りては尙農繁に際し充分に人夫を集め得ざる爲木材の搬出を爲し能はざることあり

四 春季發育したる木通蔓（アケビヅル）を夏の土用後に至りて採收し平釜に裝置したる蒸桶にて之を蒸したる後淸き流水に浸すこと凡そ一ヶ月にして皮を剝ぎ取り更に二日間米を洗ひたる白水に浸したる後日光に晒し之を以て木通蔓細工をなす。

五 不熟の柿實を採り細に搗碎き果實一斗に水二升五合の割合にて桶に盛り一兩日を經布袋にて絞り以て澁を製すべし。

六 引續き杞柳を刈取り剝皮及乾燥をなす。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一 前月に引續き山腹法切及其竣成地に積苗工筋工等を施設すべき階段を掘鑿し尙筋工を施設すべき階段に幅六寸深八寸の溝堀りをなし肥料と爲すべき稻藁を埋伏す。

二 農繁にて人夫を得ること困難なり。

三 新工事の設計に從事す。

四 暴風雨の時期なるが故に排水に注意すべし。

狩獵及其他

一 山葵畑の地拵をなす。

二 鱒泝上すハスは中旬產卵終る。

三 巢箱を開きて越夏の成績を檢す若し貯蜜少きものは一斤の砂糖を三合の水に溶解したる位のものを給すべし。

四 養蜂に於て貯蜜欠亡せる群には夜間給蜜すべし又巢門は充分擴大して凉風の流入に便ならしむべし。

九月

暦

氣節 八日 白露 二十四日 秋分

祭日 二十四日 秋季皇靈祭 二十一日 彼岸 二十三日 社日

雜節 一日 二百十日 十六日 朔

朔望 一日 望

內業

一 秋植用の器具類を取揃ゑ且植付人夫招集の手配をなすべし。

苗圃

一 引續き除草を行ふべし。

二 日覆を取拂ひ豫め霜除の準備をなし置くべし。

三 下旬より秋季床換を行ふべし。

四 堆積肥料の準備を始め且氷凍期に近寄らざる前に於て翌春必要なる水肥貯藏用の壺を設くべし。

造林

一 引續き下刈を行ひ本月を以て大概終了すべし。

二 湖北及國境地方に在りては下旬より秋季植栽を始むべし。

三 本月より十一月に亘り天然更新豫定地の地表攪起しを爲すべし。

四 翌春新植地の地拵に着手すべし。

五 杞柳挿植地の地拵を爲し下旬より挿植を爲す。

保護

一 松皮の暗色穿孔蟲孵化して幼蟲となる。

二 白點象蟲成蟲となる。

三 松の木蜂飛翔し卵子を產付す下旬には孵化して幼蟲となり漸次木幹內に蝕ひ入り害をなす。

四　松の黄葉蜂化蛹し下旬には成蟲となる。

五　杉コガネの幼蟲(ヂムシ)發生して杉の苗床に棲息し根部を咀嚼す故に捕へて之を潰殺すべし

六　「オホスキムシ」の幼蟲(ヂムシ)土中に棲息し樹根を食し越冬す。

七　中旬には杉の黒天牛蛹となる。

八　中旬には樫の「イモムシ」發生し樫の葉を蝕害すること一頭にても甚し故に被害樹を檢出したるときは振り落して撲殺すべし。

九　下旬には栂の毛蟲の幼蟲出でゝ栂、樅等の葉を食す。

十　楪の赤筋毛蟲老熟し幹を下りて土中に這ひ入り蛹となる。

十一　毛長毛蟲の幼蟲老熟して蛹となる。

十二　楪の穿葉蟲老熟して土中に入り冬日を經過す。

十三　栗の實の象蟲栗の實に棲息し其實の肉を以て食とし食用に供する能はざらしむ。

一　引續き秋伐を行ふ但し杉の如きは其結果八月伐と大差なきも時恰も秋冷に向ふを以て剝皮に手數を要し且乾燥に不便を感ずるの不利あり。

二　本月は化粧桁及床柱等に使用すべき、杉扁柏の洗丸太材伐採の最良季節となす蓋し剝膚白く光澤、色澤共に鮮麗なればなり。

三　引續き木材運搬を行ふべし然れども川狩に在りては前半月は出水の恐あるを以て大に警戒を

砂防工事及荒廢地復舊事業

加へざれば一朝谷川の汎濫に遭ひ一時に數萬の良材を流失して不測の災害を被ることあり。

四　鞭根の採收期間は本月中旬より翌春三月上旬迄を適當とす蓋し鞭根とは淡竹、苦竹、小三竹及黒竹の四種に限り九州最も多く四國、中國、畿内、東海、東山之に亞ぐと雖就中暖國の品質を佳良とす。

五　湖北にありて木製桑摘籠、錢籠、豆籠等の原料としてイタヤカヘデ其他のモミヂ類及ナラを伐採することは本月下旬より十月下旬迄の一ヶ月間とす。

六　本月上旬五倍子を採收すべし若し遲るゝときは五倍子内の幼蟲孵化し其一部に孔を穿ちて飛去るを以て大に價格を損するものなり。

七　本月より降雪の候に至るまで蕨粉の秋季製造を爲すべし就中秋分前後を最良とす且之に伴ひ根の粗滓中長きものを以て蕨繩を絢ふべし尚薯蕷(ヤマイモ)及カラスウリの根より各澱粉を製す。

八　下旬より山葵の採收を始む、但し採收後は直ちに苗の種付をなすべし。

一　暴風雨の時期なるが故に排水に注意すべし。

二　前月に引續き山腹工事を施行す。

三　下旬に至れば出水の虞なきを以て溪谷工事に着手す則ち土堰堤工、床固工、石堰堤工、護岸工、(柳柵工、其他粗朶工は季節猶早きを以て施設せず)を施設す。

四　農閑なるを以て人夫の出役を督勵して工事の進行を計るべし。

五　修繕個所を調査す。

一　鹿は九十兩月の頃交尾を始め一ヶ月半繼續し姙娠約四十週間にして翌年五六月頃分娩す其産仔數は一頭なるも稀に二頭なることあり。

二　兎交尾す。

三　山葵畑の床地拵を終了す。

四　鱒泝上す、大鮎産卵の爲め下流に下る、下旬小アユ産卵し始む、ウナギ産卵の爲め出水時に乘じ下降するもの多し、小アユは本月二十四日より三十一日まで縣令を以て禁漁せらる。

五　固定巣箱の蜜蜂群を框式巣箱に移し換ふるには本月中下旬を良しとす又暑氣去ると共に巣門を縮少して巣内の保温を計るべし黄蜂(クマバチ)來襲せば一匹も餘さず捕殺すべし。

十月

暦
- 氣節　九日　寒露　二十四日　露降
- 大祭祝日　十七日　神嘗祭　二十三日　新嘗祭　三十一日　天長節祝日
- 雜節　二十一日　土用
- 朔望　一日、三十日　望　十六日　朔

一　椎蕈秋子を容るべき紙袋及び其外裝用の蓋又は箱を作るべし。

一　暖地の苗圃に於ては尙除草をなすを要す。

二　寒風强き所にありては苗木に霜除をなすべし。

三　湖北及國境方面にありては上旬より其他にありては本月下旬より十一月中旬に亘り杉、扁柏の毬實稍々淡黄色を帶び將に開口せんとするを待ち之を採收し其種實を精選したる上能く乾燥して布袋に入れ空氣の流通良き所に貯え置くべし。

四　各種の種實成熟するを待ち採收すべし但樟其他の種子にして地上に落下するを待ち採收すべきものにありては豫め母樹の下を刈拂ひ掃除し置くを要す。

五　カシ類、シヒ類、ナラ、クヌギ、トチノキ、カヤ、クルミ、イヌマキ、ツバキ、ホ、ノキ等大粒の種實を取播するか又は之を土中に貯藏すべし而してクリ、クヌギ、ナラ等の種實には象鼻蟲の寄生するもの多きを以て貯藏に先ちクリは約十日間、クヌギ、ナラは約二週間浸水するを要す但浸水中は腐敗を防ぐ爲時々水を新にすべし、二硫化炭素燻煙を以て此の浸水に代ふることあり。

六　霜柱の甚しからざる地方に於てはカラマツ、モミ、スギ、ヒノキ、クリ、ケヤキ、クヌギ、シユロ等の床替を爲す。

七　此月中旬より十二月に至る迄の間に床替及山出の準備として苗木の本數を計算し置くべし。

一　中旬頃より秋植の好季節なり。

二　樹液流動の休止するを俟ちて枝打を始むべし。

三　間伐及掃除伐を始むべしスギ、ヒノキの間伐材にして其樹皮を利用すべき見込なきものは本月より始め翌年一月末に終るべし。

四　引續き明春に於ける植栽豫定地の地拵をなす。

五　引續き杞柳畑の地拵をなし挿植を爲すべし。

一　防火線の新設及掃除に着手すべし。

二　杉、扁柏等の造林地に於ては鹿の交尾期に際し往々角を以て剝皮せられ害を被ることあり。

三　赤蜂續々成蟲を產出す。

四　松の綠葉蜂化して成蟲となり松葉に產卵す下旬には幼蟲となり松葉を蝕害す。

五　松の黃葉蜂成蟲となる。

六　下旬には杉の赤天牛杉樹の剝脫せる樹皮の裏面に產卵すれば剝れ起きたる樹皮の如きは可成剝き取り燒き棄つべし。

七　杉の黑天牛成蟲となり樹幹內に蟄伏して越冬す。

八　上旬には檜の蚧蟲の成蟲及幼蟲檜に棲息して其養液を吸收す故に被害樹には魚油乳劑等を噴霧器にて振り掛くべし。

九　下旬には毛蟲蛾現出して產卵す。

十　毛長毛蟲化して蛾となり幹枝に產卵す卵子は灰白球狀なり。

十一　「ヤマガラス」の蛾蟲出でゝ通常食樹の幹枝若くは葉面に產卵す。

十二　樫の蠋老熟して幹枝を這ひ下り土中に入りて冬日を經過す故に冬期に至らば被害樹の根際を鋤き起して凍死せしむべし。

十三　「マサキムシ」化して蛾となり被害樹の幹枝に粟粒大の卵子數十個を群付し母蛾の軀毛を以て卵塊を覆ふ故に之を檢査して潰殺すべし。

十四　山葵畑は大雨の際濁水の流入せざる樣注意すべし。

一　用材の冬季伐採を始むべし。

二　夏の土用中若は土用明け後に於て伐採したる木材は秋の土用中若は土用明け後に至り之が造材に着手し樽丸製造の如きは引續き翌年二月頃に及ぶ。

三　本月より翌年一月中旬迄を竹林擇伐の最良季節となし滿四年以上の古竹を擇伐するを法とす若し三年を經ざる竹を伐るときは必ず竹林の勢を損し又七八年も伐採せずして放置するときは遂に花實を結びて其竹必ず枯る且又其切株は鉈或は手斧を用ゐて能く細碎し之をして可成早く腐朽せしむるを要す然らざれば筍の產出を減じ林相の荒廢を招くを以てなり。

四　薪炭材の伐採を始むべし一般に薪炭林の伐採は秋季樹液流動の終より翌春流動の始まる迄を好季とす其他の季間に在りては蒴芽力を減殺するを以て不利なり。

五　椎蕈榾木に雜菌の寄生すること甚しきにより一層驅除に力むべし。

六　春季行ふべき主伐及間伐の實査を爲すべし。

七　栗の實を採收して勝栗又は乾栗を製し其他食用として「クルミ」「カヤ」「トチノキ」「シヒ」「マテバシヒ」「ヤマナシ」「ハシバミ」「イチフ」等の種實を採收すべし。

八　漆の提掻を爲し下旬より十一月中旬まで留掻をなす。

九　松蕈類を採收すべし。

十　香茸の採收期は初旬より中旬迄の午後一時より四時迄を可とす。

十一　筏結束用藤蔓の採收を始むべし。

十二　引續き山葵の採收を爲すべし。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一　前月に引續き工事を施設し又修繕箇所の調査を爲すべし。

狩獵及其他

一　本月十五日より雉子、鸐鷄を除き狩獵を爲すことを得。

二　穴熊は本月頃交尾し翌春二三月頃三乃至六頭の仔を分娩す。

三　アメノウヲ(鰌の產卵期に至り体色赤黑色に變したるものを云ふ)下旬より產卵の爲め訴上し始む、ウナギは出水時盛に下る、溜池養魚者は鯉の取揚をなし更に鯉兒を放養す。

四　養蜂にありては越冬備準をなすべし即ち蜂の群居せる巢脾の大部分に蓋されたる貯蜜あれば

よし若し少き時は一週間以内の範圍にて之に給蜜すべし、防寒の手當としては空巢脾を除き其空所に籾糠又は藁をつめ外部は藁薦にて包み巢門を縮め凡て保温に力め又巢箱は氣温の變化少く比較的温暖にして直接風の當らざる乾燥せる箇所に置くべし、黃蜂の來襲にも注意するを要す。

十一月

暦（氣節　八日　立冬　二十二日　小雪／祭日　二十三日　新嘗祭／朔望　十日　望　二十五日　朔）

內業

一　春季使用すべき苗圃の移動を調査すべし。

二　春季迄使用せざる器具器械類の手入修繕をなすべし。

三　種子の精撰、發芽試驗をなす。

苗圃

一　霜覆を設く其法は日除を設けたる反對の方向卽ち北方を低く南方を高く覆を造るべし但し寒冷酷なるの地にありては通常霜覆の外猶籾殼或は藁袴を苗床に散布すべし。

二　前月に引續き各種の種實採收をなすべし。

三　春季使用すべき苗圃地を深く打ち起し高く畝立て置き冬間強く凍結せしめて蟄伏せる害蟲を驅除し旦土壤の風化を促すべし。

四　時々巡視して諸害に注意すべし。

一　降霜遲き地方に於ては秋植を實行し得べし。

二　引續き間伐、掃除伐及枝打をなすべし。

三　引續き春季に於ける植栽豫定地の地拵をなすべし。

四　盛に杞柳の挿植を行ふべし。

一　引續き防火線の新設及掃除をなし野火を豫防すべし。

二　針葉樹にありては上旬には松蛀蟲幹枝を這ひ下りて蟄伏す故に土中落葉の下樹皮の裂目に注意して捕殺すべし。

三　直孔穿孔蟲の幼蟲は樹皮若くは土際に接せる松幹の樹皮内に蝕ひ入り越冬す。

四　下旬には松の綠葉蜂の幼蟲漸々土際に下り繭を營み蟄して越冬す。

五　杉の天牛の幼蟲(キクヒムシ)現出し杉の樹皮内に蝕ひ入り次て幹内に侵入し幼蟲の儘越冬す此害を受けたる樹木は伐り取りて驅除すべく又此害蟲は日當り好き場處に植へ付けたる杉樹に多きが故に可成陰濕の地に植付けて蟲害を豫防すべし。

六　澗葉樹にありては栗實の象蟲老熟して栗の實を出でゝ土中に入り冬日を經過し翌年の六七月化して蛹となり八月に成蟲となる。

七　竹にありては上旬穿孔蟲の幼蟲蛹共に竹材内に寄生し縱横に孔を穿ち害をなす故に此害を受けたる材は他の材と區別し害蟲の傳染を防き且時機に依りては之れを燒き棄つべし但し此害に罹る材は夏日に伐採せるものに多ければ宜しく注意すべし。

一　引續き薪炭材の伐採をなすべし。

二　春季に於て施行すべき主伐木及間伐木の實査をなすべし。

三　本月より翌春樹木の生長を始むる迄は製炭の好季節なり。

四　引續き椎蕈の採收及乾燥に從事すべし。

五　引續き椎蕈原木の伐採をなすべし。

六　椎蕈原木は其伐採後翌年二、三月頃まで乾燥する所に放置し枝葉枯凋するを俟ち枝を切拂ひ之を長さ五尺位づゝに切斷すべし此切斷木をボタ(榾木)と稱す而して鉈を用ひ末口より元口へ向け適宜の距離を以て其皮部に切目を入るべし之を刻みと云ふ然る後引續き寢せ込みをなし其儘二年間放置すべし若し椎蕈を早く發生せしめむと欲せば刻みと同時に椎蕈の盛に寄生せるボタの皮部を剝きて細末となし之を新ボタの刻み目に撒布し或は椎蕈の發生せるボタを共に寢せ込ませ以て菌種の發育を助くべし、胞子を注射するものは刻みを爲さざるものとす

七　椎蕈原木根伐りの年より起算し三年目に至り十一月より翌年一月迄の間に於てボタ寄せ（又は伏せ木おろし）をなすべし。

八　中旬より下旬に亘り漆の枝掻をなす。

九　本月より翌年二月迄の間に於て櫨又は漆の實を採集し木蠟を製すべし。

十　本月初旬より翌年まで山間自生の葛根を採收し以て葛粉を製造す。

十一　萱の莖葉將に黄色を呈せんとする頃刈り取り置き其乾燥するを待ち炭菰を編むべし。

十二　結霜後竹林の伐採に着手すべし。

十三　山葵の採收を始む而して其跡地を整理し苗種付をなすべし。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一　前月に引續き溪谷工事を施設す。

二　薄株、萩苗等を植栽するも枯損するの虞なきを以て積苗工及水路張芝工を施設し筋工に肥料となすべき稻藁等の埋伏して萩苗（二三本宛五六寸距）及薄株（筋工に沿ひ並列密植）を植栽す

三　下旬には柳柵工其他粗朶を使用する工事の施設に着手す。

四　農繁にて人夫を得ること困難なり。

狩獵及其他

一　羚羊（カモシカ）は本月頃交尾し姙娠二十乃至二十二週間にして翌春四月頃分娩す其産仔數一頭なるも稀に二頭なることあり。

二　鹿も亦本月初旬頃交尾す。

三　アメノウヲ産卵盛期にして當月一日より二十日まで縣令を以て禁漁せらる、下り「ウナギ」終了す。

四　下旬には養蜂に於て盜蜂の生するものなるを以て之を防ぐべし。

十二月

暦（氣節　七日　大雪　二十二日　冬至）
（朔望　九日　望　二十五日　朔）

内業

一　翌年に於て實行すべき事業の計劃及豫算を立つべし。

二　器具器械の手入修繕をなすべし。

三　炭菰、苗木の根包み菰、蓑、繩等を調製すべし。

四　種子の精撰、檢定、乃至苗木賣買の準備をなすべし。

苗圃

一　上旬には苗床になすべき土地を選定して一尺四五寸の深さに耕鋤し草根を除きて寒氣に暴露し置く若し白色の幼蟲を認むるときは盡く之を捕殺すべし。

二　風雪の爲め霜除の破損せるものあらば之を修繕すべし。

三 杭並に葭簀繩菰等の準備をなすべし。
四 時々巡視して諸害に注意すべし。
五 兎鼠の害を防ぐ爲め燐、亞砒酸「ストリキニン」等を用ゐて毒殺すべし。
六 中旬の暖かなる日には「マツ」の山出苗を堀取り假植をなす。
七 苗木を堀取るには丈夫なる鎌或は少なる唐鍬を用ゐて根幹枝葉を傷めざる樣にし又捨て置きて風或は日に晒し乾かざる樣にすべし。
八 下旬には「スギ」「ヒノキ」の山出苗を堀り取りて假植をなす。

造林

一 積雪なき地方に於ては引續き春季植栽豫定地の地拵をなすべし。
二 引續き間伐及掃除伐をなすべし。
三 枝打をなすべきも漸次嚴寒に向ふを以て切口凍傷の虞あれば之を見合はすべし。
四 秋植は本月初旬まで引續き行ふことを得。

保護

一 積雪なき地方に於ては翌春青草の發生する迄特に野火に注意すべし。
二 雪害及兎害に注意すべし。
三 害蟲の蛹及卵を搜索して潰殺すべし又幼蟲の冬籠りをなすものあれば之を捕殺すべし。
四 年末なるに依り殊に盜伐に注意すべし。

利用

五 積雪の前數卷を爲すべし。
一 引續き用材及薪材の伐採をなすべし。
二 引續き春季伐採すべき主伐木及間伐木の實査をなすべし。
三 引續き椎茸原木の伐採及榾起を爲すべし。
四 竹林の伐採は前月に引續き行ふことを得。
五 本月より翌年二月頃迄獸類の毛皮を利用すべき好季節とす。
六 引續き山葵の採收をなすべし、採收跡地は直に苗種付を行ふ。

砂防工事及荒廢地復舊事業

一 前月に引續き工事を施設す。

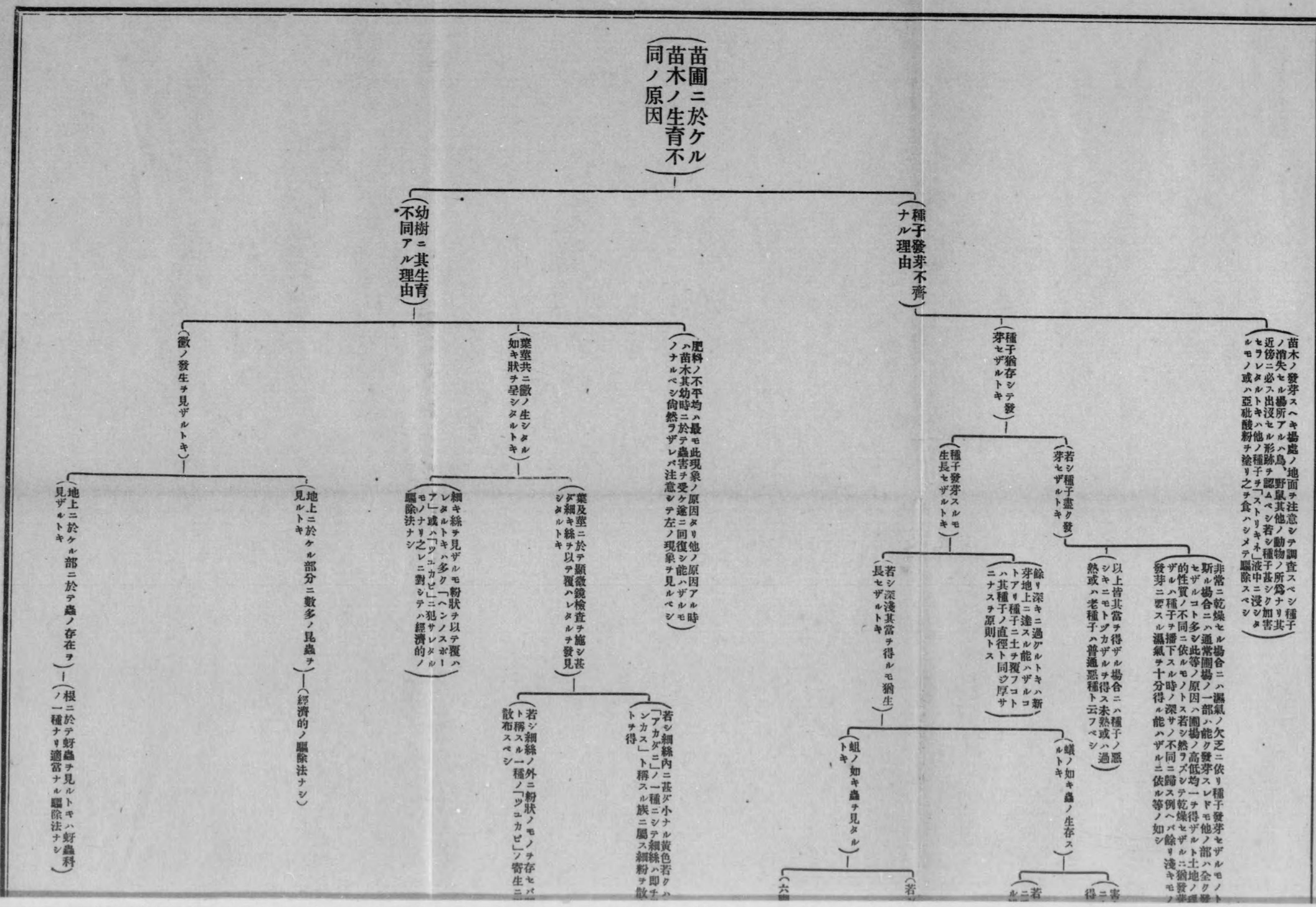
狩獵及其他

一 野猪は本月交尾を始め約五週間繼續し姙娠十八乃至二十週間にして翌春四月頃分娩す其産仔數四乃至八頭にして稀に十頭なることあり。
二 アメノウヲ泝上産卵終る。
三 養蜂場を見廻り巣箱の破れたるもの及び雪の爲め埋れたるものに手入をなすべし。

| | | |

苗圃之注意

（本表ハ苗圃ノ成蹟調査ニ際シ參苗木生育不同ノ原因ヲ探究シタ



之注意

（本表ハ苗圃ノ成蹟調査ニ際シ參考ノ爲メ編成セルモノナレバ本表ニヨリ苗木生育不同ノ原因ヲ探究シタルトキ宜シク改良ノ方法ヲ講ズベシ）

- 播種ノ時期ニ於テ蟲害ヲ受ケ途ニ回復シ能ハザルモ尚然ラザレバ注意シテ左ノ現象ヲ見ルベシ（平均ハ最モ此現象ノ原因タリ他ノ原因アル時）
  - 若シ種子盡ク發芽セザルトキ
    - 非常ニ乾燥セル場合ニハ濕氣ノ欠乏ニ依リ種子發芽セザルモノトス斯ル場合ニハ通常圃場ノ一部ハ能ク發芽スレドモ他ノ部ハ全ク發芽セザルコトヲ得ザルト土地ノ理學的性質ノ不同ニ依ルモノトス若シ然ラズシテ乾燥セザルニ猶發芽セザルハ種子ヲ播下スル時ノ深サノ不同ニ歸ス例ヘバ餘リ淺キモノハ發芽ニ要スル濕氣ヲ十分得ル能ハザルニ依ル等ノ如シ
    - 以上皆其當ヲ得ザル場合ニハ種子ノ惡シキニモトヅカザルヲ得ス未熟或ハ過熟或ハ老種子ハ普通惡種ト云フベシ
  - 種子發芽スルモ生長セザルトキ
    - 若シ深淺其當ヲ得ルモ猶生長セザルトキ
      - 蛆ノ如キ蟲ヲ見タルトキ
        - 害蟲白色ヲ呈スルトキハ白蟻科ノ蟲ナリ主ニ沼池ニ生息スルヲ以テ此沼池ヲ改良スレバ此害ヲ免レ得ベシ
        - 若シ褐色或ハ白色以外ノ色ナレバ蟻科若クハ之レニ近キ蟲類ノ加害セルナリ此場合ニハ十分叮嚀ナル耕作ヲ行フトキハ之レガ被害ヲ免ルヽコトヲ得
      - 蠟ノ如キ蟲ノ生存スルトキ
        - 若シ堅クシテ針線ノ如キトキハ「ハリカネムシ」ノ一種ナリ此蟲ハ屢大害ヲナセドモ未ダ實際ニ行ハルベキ適當ノ驅除法ナシ被害甚シカラザル場合ハ更ニ肥料ヲ施シ生育ヲ促進セシムルヲ良策トス土地ニ雜草ヲ多ク生ゼシムルトキハ翌年ニ生存スルノ好機ヲ與フベシ
        - 若シ短大ニシテ柔カキトキハ金龜子科ノ幼蟲ナリ同前ノ方法ヲ施スベシ
    - 餘リ深キニ過グルトキハ新芽地上ニ達スル能ハザルコトアリ種子ニ土ヲ覆フコトハ其種子ノ直徑ト同ジ厚サニナスヲ原則トス
- 播種ノ時期ニ於テ蟲害ヲ受ケ途ニ回復シ能ハザルモ尚然ラザレバ注意シテ左ノ現象ヲ見ルベシ（平均ハ最モ此現象ノ原因タリ他ノ原因アル時）
  - 若シ細絲內ニ甚ダ小ナル黃色若クハ赤色ノ動物ヲ見ルトキハ「アカダニ」ノ一種ニシテ細絲ハ即チ巢絲ナリ此蟲ハ「ラトラシカス」ト稱スル族ニ屬ス細粉ヲ散布スルトキハ驅除スルコトヲ得
  - 若シ細絲ノ外ニ粉狀ノモノヲ存セバ即チ「エリシフエテシー」ト稱スル一種ノ「ツユカビ」ソ寄生ニ罹レルモノナリ硫黃華ヲ散布スベシ
- 葉及莖ニ於テ顯微鏡檢査ヲ施シ甚ダ細キ絲ヲ以テ覆ハレタルヲ發見シタルトキ
  - 細キ絲ヲ見ザルモ粉狀ヲ以テ覆ハレタルトキハ多ク「ヘンノスポーア」或ハ「ツユカビ」ニ犯サレタルモノナリ之レニ對シテハ經濟的ノ驅除法ナシ
- 數ノ生シタル莖シタルトキ
  - 地上ニ於ケル部分ニ數多ノ昆蟲ヲ見ルトキ（經濟的ノ驅除法ナシ）
  - 地上ニ於ケル部ニ於テ蟲ノ存在ヲ見ザルトキ
    - 根ニ於テ蚜蟲ヲ見ルトキハ蚜蟲科ノ一種ナリ適當ナル驅除法ナシ

播種量一坪當リ標準

（山林局林業試驗場調）

樹種 ＼ 發芽量%	0.一五	0.二五	0.三五	0.四五	0.五五	0.六五	0.七五	0.八五	0.九五
杉 合	五.五〇	三.五〇	二.五〇	一.六五	一.三〇	一.〇五	〇.八五	〇.七五	〇.七〇
ヒノキ ク	—	—	二.五〇	一.六〇	一.二五	一.〇〇	〇.八〇	〇.六五	〇.六〇
赤松 ク	—	—	—	—	一.〇五	〇.八五	〇.七〇	〇.六〇	〇.五五
黑松 ク	—	—	—	—	一.二五	一.〇五	〇.九〇	〇.七五	〇.六五
カラ松 ク	—	三.五〇	二.三五	一.七〇	一.四〇	一.一五	一.〇〇	〇.八五	〇.七〇
モミ ク	—	—	九.五〇	七.〇〇	六.〇〇	五.〇〇	四.五〇	三.五〇	三.〇〇

大正六年四月廿七日印刷
大正六年四月三十日發行
（非賣品）

滋賀縣內務部森林課

印刷人　岐阜縣安八郡大垣町字郭百五十三番戸
　　西濃印刷株式會社代表者　河田貞次郎

印刷所　岐阜縣安八郡大垣町字郭百五十三番戸
　　西濃印刷株式會社

327
968

終